

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

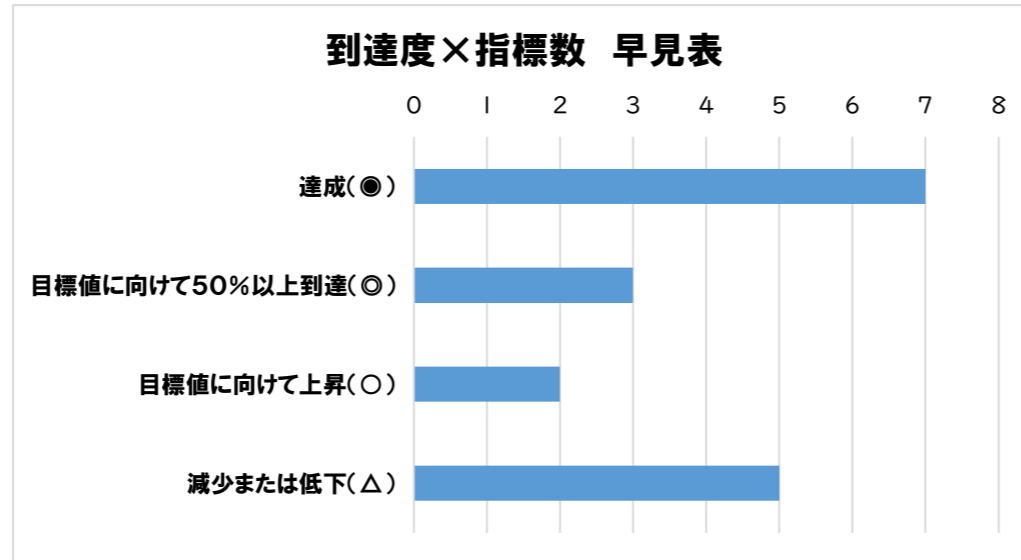
基本目標 1 一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

目標値に達した指標数	/	指標数
7	/	17

目標値に向けて50%以上到達した指標数	/	指標数
10	/	17

目標値に向けて上昇した指標数	/	指標数
12	/	17



～総括～

・17の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは7、目標値に向けて50%以上到達したものは10と、半数以上の指標が目標値に対して高い到達度を示し、「一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち」の達成に向けて掲げた指標の達成状況としては、市の取り組みが着実に成果を上げている結果と受け止めています。

・主な例としては、「<sup>9</sup>高齢者が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合」が上昇しており、「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと」宣言の理念の発信や、高齢の方の居場所づくりにもつながるシリウスの整備など、様々な施策の成果が寄与していることが考えられます。また、「<sup>7</sup>地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合」が目標値を達成しており、地域医療を支える市立病院において、診療所や地域内の医療機関との連携が進んでいることが窺えます。加えて、介護サービスの質の確保・向上を進めた結果として「<sup>13</sup>介護サービス利用者の満足度の割合」も上昇しています。

・数値が減少(低下)しているものについて、「<sup>5</sup>休日夜間急患診療所(一次救急)の年間患者取扱件数」は目標を達成していないものの、日中のかかりつけ医などで診療を受ける適正受診が進み、減少していると捉えると、前向きな結果として受け止めることもできると考えます。また、「<sup>3</sup>65歳以上のインフルエンザ予防接種受診率」は積極的な接種勧奨とならないよう国の方針が示されていることを踏まえ、当初と比較しても大きな変動はありません。市立病院の「<sup>8</sup>患者満足度調査における満足度の割合」はわずかに低下していますが、引き続き、外来診療や会計での待ち時間の短縮などに努めていきます。

・健康づくりの知識の普及啓発や健康相談等の取り組みを進めてきた中で、「<sup>1</sup>自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合」が横ばいで推移していることや、「<sup>16</sup>国民健康保険制度における特定健康診査の受診率」が伸び悩んでいることは特に課題と捉えています。高齢化の進展に伴って、今後、健康の持つ価値が一層高まることが想定され、健康都市やまと総合計画においては、基本目標を健康と福祉の分野に分割し、それぞれの充実を図っていることから、これらの課題を踏まえて、取り組みをさらに推進していく考えです。

成果を計る主な指標の達成状況の検証(課題となるものを抜粋)

指標の項目	当初値 H24	目標値 H30	実績値 H30	到達度	
				率	到達
1 自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合	63.1%	75.0%	62.3%	-6.7%	△
2 肺がん検診受診率	15.5%	27.5%	20.4%	40.8%	○
3 65歳以上のインフルエンザ予防接種受診率	34.0%	50.0%	32.7%	-8.1%	△
4 自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺死者数)	20.9人	15.5人	13.1人	144.4%	●
5 休日夜間急患診療所(一次救急)の年間患者取扱件数	13,018件	14,000件	11,854件	-118.5%	△
6 二次救急での中度・重度患者の割合	12.1%	17.0%	17.2%	104.1%	●
7 地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合	46.9%	65.0%	65.6%	103.3%	●
8 患者満足度調査における満足度の割合	89.1%	94.0%	88.4%	-14.3%	△
9 高齢者が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合	54.6%	57.0%	60.8%	258.3%	●
10 シルバー人材センターの会員数	894人	1,090人	993人	50.5%	◎
11 介護予防講座受講者数	324人	536人	1,425人	519.3%	●
12 介護を必要とする人が安心して暮らしていると思う市民の割合	47.3%	65.0%	54.0%	37.9%	○
13 介護サービス利用者の満足度の割合	62.3%	70.0%	68.1%	91.5%	◎
14 障がい者の地域移行率	39.0%	45.2%	51.1%	195.2%	●
15 地域に支え合う人のつながりがあると思う市民の割合	41.9%	46.0%	44.9%	73.2%	◎
16 国民健康保険制度における特定健康診査の受診率	32.0%	60.0%	30.1%	-6.8%	△
17 保護受給世帯のうち、働ける世帯(その他世帯)の割合	21.8%	20.0%	11.4%	577.8%	●

①自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合

(達成状況に関する市の考え方)

・さまざまな機会を捉え健康づくりの啓発を行い、健康教室や健康相談等の利用者実績は増加しているものの、目標は達成できませんでした。今後も健康づくりの知識の普及啓発、健診後の個別相談等を通して、自主的な健康づくりの意識が高められるように努めます。

②国民健康保険制度における特定健康診査の受診率

(達成状況に関する市の考え方)

・対象者へのPRや受診勧奨に努めているものの、目標値には到達していません。国から示された値に基づき設定した目標値が現実から乖離していたことが原因と考えられます。一方で、県内19市との比較では上位に位置していることから、今後は現実に則した目標値を設定した上で、受診券様式の工夫等の受診率向上に引き続き努めます。

(総合計画審議会のコメント)

・基本目標1を構成する17の成果を計る主な指標のうち、目標を達成したものが7、当初の値から上昇したものが12と、全体的に良好な達成状況を示しています。

・この背景として、「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと」宣言や、高齢の方の居場所ともなっているシリウスの整備、市立病院と地域の医療機関の連携が進んでいる点など、市の着実な取り組みが成果につながっているものと考えます。

・「国民健康保険制度における特定健康診査の受診率」の向上は、健康・医療データを活用した科学的アプローチのもと、医療費の適正化を図っていく上で、その入り口ともいえるべき重要な要素です。これまでの様々な取り組みの効果を見極めていくとともに、データヘルス計画を活用しながら、さらに効果を上げていくよう努めてください。

・また、市民意識調査の「あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいる」と思う市民の割合について、アンケートという主観指標であることを踏まえても、現時点で6割以上の方が健康づくりに関心を持っている状況は評価できます。年齢を重ねると、一人ひとりの「元気」に対する考え方が変わっていくことも想定される中で、この指標の本質を見極めていくよう努め、市民の健康づくりに真に有効な事業に取り組みながら、健康都市やまと総合計画を推進し、引き続き、着実に施策を展開していただく。



# 第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

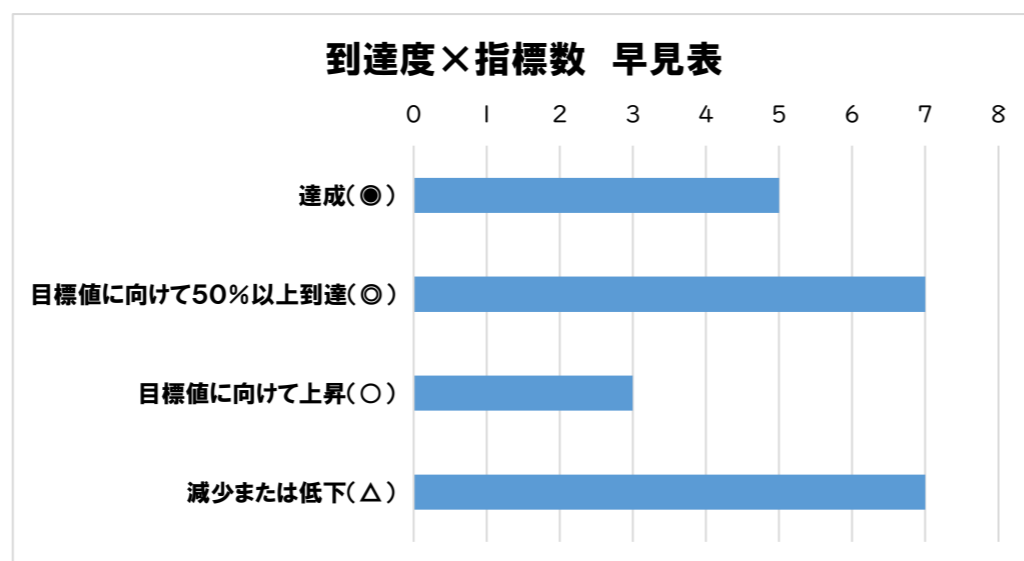
## 基本目標 2 子どもが生き生きと育つまち

### ▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

目標値に達した指標数	／	指標数
5	／	22

目標値に向けて50%以上到達した指標数	／	指標数
12	／	22

目標値に向けて上昇した指標数	／	指標数
15	／	22



指標の項目	当初値 H24	目標値 H30	実績値 H30	到達度	
				率	到達
18 妊婦健康診査の平均受診回数	10.4回	14.0回	11.7回	36.1%	○
19 4ヶ月児健康診査の受診率	96.2%	98.0%	97.9%	94.4%	◎
20 小学校の給食残食率(野菜)	12.0%	8.0%	10.0%	50.0%	◎
21 学校PSメール世帯普及率	81.0%	97.0%	89.6%	53.8%	◎
22 子どもの交通事故の市内発生件数	139件	110件	67件	227.6%	●
23 将来の夢や目標をもっていると答えた児童・生徒の割合(小5)	88.2%	89.0%	88.8%	75.0%	◎
24 将来の夢や目標をもっていると答えた児童・生徒の割合(中2)	69.8%	72.0%	74.7%	222.7%	●
25 児童・生徒の1か月の平均読書冊数(小4~6)	11.3冊	14.0冊	16.0冊	174.1%	●
26 児童・生徒の1か月の平均読書冊数(中1~3)	3.7冊	6.0冊	4.5冊	34.8%	○
27 不登校児童・生徒の割合(小)	0.57%	0.25%	1.01%	-137.5%	△
28 不登校児童・生徒の割合(中)	3.53%	2.22%	4.39%	-65.6%	△
29 いじめ問題の解消率(小)	95.8%	100.0%	88.5%	-7.3ポイント	△
30 いじめ問題の解消率(中)	100.0%	100.0%	88.9%	-11.1ポイント	△
31 子どもの個性や能力にあった教育が行われていると思う市民の割合	32.5%	40.0%	39.6%	94.7%	◎
32 特別支援教育ヘルパー充足率	92.0%	100.0%	97.8%	72.5%	◎
33 放課後子ども教室参加率	8.4%	10.0%	8.9%	31.2%	○
34 児童館の1日あたりの平均利用者数(全22館)	451人	450人	401人	-50人	△
35 中高生ボランティア参加者数	115人	125人	54人	-610.0%	△
36 子育てに関する不安を相談できる場があると思う市民の割合	47.7%	60.0%	58.5%	87.8%	◎
37 つどいの広場の1か所1か月あたりの平均利用者数	2,007人	2,200人	1,586人	-218.1%	△
38 保育所の入所定員数	1,660人	3,185人	4,283人	141.2%	●
39 放課後児童クラブの待機児童数	0人	0人	0人	100.0%	●

### ～総括～

・22の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは5、目標値に向けて50%以上到達したものは12と、半数以上の指標が目標値に対して高い到達度を示しました。

・「194ヶ月児健康診査の受診率」の上昇や、「22子どもの交通事故の市内発生件数」の大幅な減少は、積極的な市の取組みが子どもの健康や安全の確保に寄与している成果と考えられます。また、保育所入所待機児童数が4年連続でゼロを達成したことに関わる「38保育所の入所定員数」の確保と合わせ、「39放課後児童クラブの待機児童数」もゼロを維持しており、「36子育てに関する不安を相談できる場があると思う市民の割合」が上昇していることから、市民が安心して子育てができる環境づくりが進んでいると捉えています。加えて、「25・26児童・生徒の1か月の平均読書冊数」は、学校司書の全校配置などにより増加傾向にあります。

・数値が減少(低下)しているものとして、「27・28不登校児童・生徒の割合」「29・30いじめ問題の解消率」は、子どもの健全な成長を支えていく上で特に重要なテーマと捉えています。また、「34児童館の1日あたりの平均利用者数」は子どもたちの居場所の選択肢が増えていることを背景として、「35中高生ボランティア参加者数」はカウント対象となるボランティア機会の減少を原因に、共に目標を下回っています。加えて、「37つどいの広場の1か所1か月あたりの平均利用者数」は、平成27年11月にオープンした施設において開所日数が制限されるなど1か所平均としての数値は当初より減少しています。健康都市やまと総合計画では、少子化が進む時代にあって、さらなる施策の充実を図るため、子育てと教育の分野に係る基本目標をそれぞれ独立させて設定しており、子どもの発達に応じたきめ細かな取り組みを一層進めていく考えです。

### 成果を計る主な指標の達成状況の検証(課題となるものを抜粋)

#### ①不登校児童・生徒の割合(小・中) ※健康都市やまと総合計画では「不登校児童・生徒の改善状況」として指標を掲載(達成状況に関する市の考え方)

・数値については平成29年度まで横ばいで推移し、平成30年度に上昇しています。背景には、平成28年度に施行された教育機会確保法で、学校外での多様な学習活動の場の重要性が指摘され、不登校に対する従来の考え方が変容してきたことも挙げられると考えます。市においては、ベテルギウスに移転することで充実した教育支援教室(まほろば教室)の運営や、特別支援教育センター(アンダンテ)の開設など、一人ひとりの子どもたちへの多様な学習の場の提供にも力を入れています。引き続き、今後も、学校と教育委員会がより連携を強化し、新たな不登校を生まない体制づくりや早期対応に努めていく必要があります。

#### ②いじめ問題の解消率(小・中)

(達成状況に関する市の考え方)

・国のいじめ防止基本方針の変更に伴い、平成29年度より、いじめ発生から3か月後がいじめ解消の確認月とされました。これにより、前年度いじめ解消率を捕捉する基準月である5月(全国的なとりまとめ月)時点で、発生から3か月未満となる2月、3月のいじめの解消は、解消率に反映できなくなったことから数値が減少しています。なお、現時点でこの数値を捕捉しなすと、解消率は小99.7%、中100%となり、ほとんどが解消につながっていますが、いじめへの対応はその性質上、継続していくことが重要であり、引き続き、各学校では、いじめ防止基本方針に則り、いじめ防止・早期発見・早期対応に取り組んでいく必要があります。

#### (総合計画審議会のコメント)

・基本目標2を構成する22の成果を計る主な指標のうち、目標を達成したものが5、当初の値から目標値に向けて上昇したものが15となっており、7割近くの指標は上昇につながっている概ね良好な達成状況です。

・この背景として、子どもに対する取り組みのスタートラインともいえる4ヶ月児健康診査の受診率の上昇や、拡大する保育ニーズに対する保育所の入所定員数の継続的な確保など、子どもの健康や安全を守り、市民が安心して子育てをする環境づくりが進んでいると評価できます。

・中高生ボランティア参加者数は、子どもが日常の中でボランティア精神を育てていくために重要な取り組みの指標となります。ボランティア活動を通じて、今の中高生が将来の豊かな地域社会をつくっていくことを期待し、決められた機会の参加者数を伸ばすだけでなく、地域参加の観点から自治会などでの多様な地域活動に展開するなど、ボランティア精神の醸成につながるような取り組みを進めていってください。

・また、いじめや不登校は、様々な要因が複合的に絡み合う問題であり、社会との接点が増えてくる多感な時期に、子どもが生き生きと希望を持つことができる環境を確保するためには、行政内部の横断的な連携を強化してこの問題に向き合うことが重要です。いじめや不登校が、時として子どもの命にも関わる大きな問題であることを踏まえて、行政だけでなく、地域の支援を得るなど、様々な対策も検討しながら、健康都市やまと総合計画の推進につなげていくよう努めてください。